

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー		モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a12 健やかに生きる			
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部			
テーマ責任者	前村 浩二	責任部局	医歯薬(医学系)	
趣 旨	<p>高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病は、食事、運動、喫煙などの生活習慣が基盤となって発症する。将来的には2人に1人は発症するが、既に学生の頃から、その生活習慣が原因となって徐々に進行している。日本食など日本型のライフスタイルは世界でもトップの長寿社会を達成したが、昨今の急速に欧米化したライフスタイルにより、糖尿病や高コレステロール血症の患者が急増している。その中でも特に若者の食事やライフスタイルの変化の危機が叫ばれている。また喫煙は健康に良くないことは周知の事実ではあるが、日本人の喫煙率は減少傾向にはあるものの依然として高く、また禁煙、分煙の意識も十分ではない。本モジュールではヒトの体のしくみ、生活習慣病の成り立ち、喫煙や大気汚染の害、そしてそれをとりまく日本の医療制度や長崎の状況について、一般の方も知っておくべきことについて学ぶ。</p>			
学生の皆さんへのメッセージ	<p>自分の体のしくみを理解し、生活習慣病の発症の危険因子を理解することは将来の発症の予防につながります。日本はこれから超高齢化社会を迎えますが、いつまでも健康な状態で若々しくいられる「健康長寿」や「アンチエイジング」を達成するためには、若い頃から生活習慣に気をつける必要があります。本モジュールでは医学的な専門用語はなるべく避けて、一般の方でも知っておくべき内容を中心に解説します。講義だけでなくグループ学習などを通じて健康問題を考え、今のような生活習慣を心がけるべきか理解し実践して頂きたいと思ひます。</p>			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
環境因子による肺や腎臓の障害を考える	迎 寛 尾長谷 靖 坂本 憲穂 河野 哲也	肺や腎臓は外界の影響を強く受ける臓器である。肺においては、喫煙、大気汚染、などの外気に直接触れることで多くの障害を受けることが知られており、腎臓においても喫煙や食生活などの生活環境が大きく影響する。どのような障害を生じどのように回避するかを学ぶ。	環境 ニコチン依存症 食生活
生活習慣病を予防する	前村 浩二 中尾 一彦 尾崎 誠 阿比留 教生	高血圧は将来3人に1人がかかる非常に多い疾患である。またライフスタイルの欧米化により、糖尿病や高コレステロール血症の患者が急増している。これらの疾患の予防には若い頃からの生活習慣の改善が重要である。これらはどのような疾患で、どのような生活習慣が重要かを学ぶ。	生活習慣病 予防
日本の医療制度と健康問題について考える	安部 恵代 青柳 潔 有馬 和彦 西村 貴孝	現在の医療制度や、健康問題について理解するとともに、自ら疑問点、問題点を見出し、考えを深めることを目的とする。通常の講義に加え、グループごとにテーマを決めて学習、お互いにプレゼンテーションし、意見交換をする。	医療制度 健康問題

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題 を取り入れる	用 アクティブ・ラ	
環境因子による肺や腎臓の障害を考える		◎	◎						○	◎	○			◎	○	
生活習慣病を予防する	○	◎	○	○	○	○			◎	◎	○		○	◎	○	
日本の医療制度と健康問題について考える	◎		◎	○	○	○			◎	○	○		◎	◎	○	
◎(特に重視)の数	1	1	2	1	0	0	0	0	2	2	0	0	1	3	0	
○(重視)の数	1	0	1	2	2	2	2	0	1	1	3	0	1	0	3	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a13 生命を多次元で哲学する		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	小路 武彦	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	我々人間は生き物の一種である。しかし、「生きる」ということは一体どういうことで、どういう意味があるのか？「生きる」、すなわち「生命」とは何か？この命題は古代より永遠の質問として繰り返し問われ続けています。皆さんの答えは如何でしょうか？本モジュールでは、この生命を科学し、そしてその意味論を哲学することを目的としています。生命の最小単位である細胞、またその細胞が60兆個集まって個体を形成した人間、そしてその人間が集まって作り上げた秩序社会という新たな生き物。これらの次元の異なる生命体の本質に迫り、最終的に各自の生命観を確立することを目的とします。		
学生の皆さんへのメッセージ	我々は、多分生きていますが、そのことをどの程度考えて毎日を送っているのでしょうか？このモジュールで、まずは「生命」に関する正確な知識を身に付けましょう。膨大な不確かな知識は、百害あって一利もありません。覚えるだけ時間の無駄でしょう。正確な知識は例えば数は少なくとも確かな創造をもたらします。生命を3つの次元、つまり「細胞」、「個体」、「社会」に分けて、その実態を正確に把握し、そして考えましょう。「生命」とは何か？自分は何所から来て何所へ行くのか？そしてその存在の意味とは何か？こういった基本的な問い掛けの中で、「生命」についての自分なりの価値観を確立しましょう。それが、皆さんの今後の人生を堅固なものにし、王道を歩ませる筈です。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
細胞生命を哲学する	小路 武彦 由井 克之 田中 邦彦 林 日出喜	細胞は生命の最小単位と見なされている。この科目では、細胞の出現と進化、つまり偶然と必然の狭間で完成された見事で小さな生命体について、細胞内構造とそれぞれの機能及び調節、自他の認識の機構と意味論、破壊的で破滅的な癌細胞の生き方、そして最終的に訪れる死、といった観点について科学する。その過程で、驚きの真実とその意味するところを哲学し個体へと思考を展開する素地を養う。	細胞構造と機能、 細胞増殖と分化、 自他の認識機構、 癌細胞生物学、細胞死
個体生命を哲学する	永田 康浩 松坂 雄亮	細胞単位、遺伝子レベルで解明されている疾病も、個体レベルの症候として表出される表現形は多彩であり、さらにこれが個体へ及ぼす影響となると多面的になる。例えば癌においても、年齢、性別、発生臓器によりその様相は異なり、個体は社会におけるヒトとしてこれを捉えていく必要がある。細胞と社会の接点に生命体として存在する個体生命を哲学することで、科学的な理解を越え哲学的アプローチにより生命観に迫る。	癌、認知症、老化、 肥満
社会生命を哲学する	山本 琢磨	人間はいつか死を迎えるが、その最期は様々である。死、死に至る過程、老化、医療について社会的な面から考えるための素材を各講師が講義する。学生にも発表形式での参加をしてもらうこともある。	生と死・社会医学

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題 を取り入れる	アクティブ・ラ ーニングの活用
細胞生命を哲学する	◎	○	◎		○	○		○		○	○	○	◎		○	○
個体生命を哲学する	◎	○	○	○	◎	○	○	○		○	○	◎	◎	○	○	◎
社会生命を哲学する	○	○	○	○	○	◎		○		○					○	○
◎(特に重視)の数	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1
○(重視)の数	1	3	2	2	2	2	1	3	0	3	2	1	0	1	3	2

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a14 教育と文化		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	堀井 健一	責任部局	教育学部
趣旨	<p>教員免許を取得するにあたり、学校教育教員にとって身につけておかなければならない教職についての教養として、教育や学校について理解し、基礎的な知識を修得します。また、教育者には幅広い教養を身につけることが求められます。必修科目であるモジュールⅠでは、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。そしてモジュールⅡでは、文学と社会・自然科学・芸術・環境・教育相談から自身の興味に応じて選択し、各分野について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>教員免許の取得を希望される学生は受講してください。モジュールⅠの科目及びモジュールⅡの「教育相談」は教員免許取得のための必須科目です。また、教育に興味・関心のある方も歓迎します。なお、本モジュールだけでは、当然ながら教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。ここで得たものを糧にして、積極的に幅広い教養を身につけてください。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
教育相談	谷口 弘一	フォーマルなサポートであるカウンセリングとインフォーマルなサポートであるソーシャルサポートについて説明できる。学校・家庭場面において、効果的な援助が提供できるようになる。	カウンセリング、ソーシャルサポート、心理アセスメント、グループワーク
文学と社会	堀井 健一	教養としてのヨーロッパ理解のために古代ギリシアについて英語教材を通して学ぶ。到達目標は、西洋の古代ギリシアの社会と文化、人間の営みの特徴を説明できるようにすること。	古代ヨーロッパ、歴史、文化、英語圏の子供向け教材
芸術	菅野 弘之	美術における表現の喜びや感動を学ぶ。実技を絡めながら、人間を日常的なしほりから開放したり、身近な環境との出会いや交流を可能にしたりするような自由な発想、多様な表現方法を探る。	現代美術、デザイン、創造、セルフエスティーム

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
教育相談	○	○	○	○	◎	◎	○	○		◎			○	◎	○	◎
文学と社会	○	○	○	○	○			○	◎	○		◎	◎	○		◎
芸術	◎	◎	○	○	◎	◎		◎		○		○	◎		◎	◎
◎(特に重視)の数	1	1	0	0	2	2	0	1	1	1	0	1	2	1	1	3
○(重視)の数	2	2	3	3	1	0	1	2	0	2	0	1	1	1	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a15 教育と社会		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣 旨	<p>教員免許を取得するにあたり、学校教育教員にとって身につけておかなければならない教職についての教養として、教育や学校について理解し、基礎的な知識を修得します。また、教育者には幅広い教養を身につけることが求められます。必修科目であるモジュールⅠでは、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。そしてモジュールⅡでは、文学と社会・自然科学・芸術・環境・教育相談から自身の興味に応じて選択し、各分野について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>教員免許の取得を希望される学生は受講してください。モジュールⅠの科目及びモジュールⅡの「教育相談」は教員免許取得のための必須科目です。また、教育に興味・関心のある方も歓迎します。なお、本モジュールだけでは、当然ながら教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。ここで得たものを糧にして、積極的に幅広い教養を身につけてください。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
教育相談	内野 成美	教育相談の意義や過程、児童生徒理解の領域と方法、教育相談を行う際の教師としての留意点などの知識や理解を深める。また、演習も踏まえながら教育相談の実践的な技法を学ぶ。	教育相談・生徒理解・予防的・開発的カウンセリング・
身のまわりの科学	福山 隆雄	地球の誕生から生命の誕生に至る地球 46 億年の歴史について学ぶ。また、地圏システムについて理解し、私たちが住む現在の地球における環境問題などの諸問題について、自ら考察することのできる基礎知識を身につける。	地球、生命、歴史、地圏、環境
環境と社会	藤本 登 石川 衣紀	環境と社会(私たちの暮らし)の繋がりについて、持続可能な発展のための教育(ESD)の視点で見つめ直し、持続的に生活や社会制度の改善に寄与できる能力を身につけることを目的とします。そのために、エコロジカル・フットプリントや高レベル放射性廃棄物問題などを題材に、世界が求められる人物像や社会の在り方、必要な技術、制度について論究し、日本の環境と社会、そして自分との関わりや自身のあるべき姿を探ります。	ESD、LCA、環境教育、環境問題、エネルギー問題、他者理解

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
教育相談		◎	○	○	◎	○	◎	○				○	○	○	○	◎
身のまわりの科学	◎		◎					○			◎				○	
環境と社会	○	◎	◎	◎	◎	○		○		○	◎	◎		◎		◎
◎(特に重視)の数	1	2	2	1	2	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	2
○(重視)の数	1	0	1	1	0	2	0	3	0	1	0	1	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a16 環境と社会生活		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	杉村 乾	責任部局	環境科学部
趣 旨	このテーマでは、環境と人々の社会生活との関係について、歴史的側面、社会的側面、経済的側面を中心に講義します。自然科学的側面からの説明も、環境問題の原因について触れる際に、必要に応じて行います。そして、環境と人々の社会生活とのあり方について、講義の中で学んだことを踏まえて、生活者の視点から考えていきます。		
学生の皆さんへのメッセージ	省エネなど日々の環境行動から、大規模開発に伴う環境破壊に対する市民運動まで、環境を考えることは人々の暮らしと密接に関係しています。慣れ親しんだ地域で公害が生じ、生活が壊された人々の動きなど、過去の具体的事例を交え、社会的側面、歴史的側面、経済的側面を中心に皆さんと一緒に学び、考え、議論したいと考えています。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
生態系と社会	杉村 乾	人類が生態系から様々な恵みを受けてきたこと、生態系が人間活動の影響を受け、大きく変化しつつあるなかで、生態系サービスも低下していくおそれがあることについて理解する。これらの現象が各地で起きていることを提示し、その対策について、経済や政策面からの考察を与える。	生態系、生態系サービス、気候変動、生物多様性、経済社会
環境と社会運動	保坂 稔 友澤 悠季	ドイツ緑の党、日本の脱原発や水俣病を例に、公害環境問題の市民運動、住民運動の経過について理解する。政府、企業、専門家との対立や協力の相互作用のなかでの市民運動、住民運動の役割を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	公害環境問題、市民運動、住民運動
環境問題の歴史から学ぶ	関 陽子 宮西 隆幸 太田 貴大	一般に環境問題は80年代以降世界的に知られるようになったと言われているが、それ以前にも大規模な自然破壊や、これにともなう生体の健康に与える深刻な影響が報告されている。この講義ではそれらの事例を踏まえながら、ローカルな視点で環境保護を訴える立場を模索する。	環境問題、自然破壊、生体への影響、自然保護、公害

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生態系と社会	○		○	○	○		◎	○		◎	◎	◎		◎	◎	○
環境と社会運動	○	○	◎	○	○		◎	○		○	◎	○		◎	◎	○
環境問題の歴史から学ぶ	○		◎	○	○		◎	○		○	◎	○	○	○	○	○
◎(特に重視)の数	0	0	2	0	0	0	3	0	0	1	3	1	0	2	2	0
○(重視)の数	3	1	1	3	3	0	0	3	0	2	0	2	1	1	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目



## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a17 環境と社会の共生		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	濱崎 宏則	責任部局	環境科学部
趣 旨	グローバルな環境問題を考える際にローカルな地域社会の視点は重要です。大量消費型社会から脱却し、循環型社会の形成を達成して社会の持続的発展を促すために、現在のさまざまな資源利用のありかたを考察し、将来的にどのような資源利用と管理のありかたが望ましいのかを考えることが必要です。この「環境と社会の共生」では、地域の資源の特色に合わせた資源利用と管理のありかたを地域の実例とともに考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	環境問題は、皆さんの現在のライフスタイルに直結しています。資源利用と管理が実際の生活にどう結びついているのかを考えながら、資源の動向を決定づけているメカニズムや組織を理解することによって、地域における環境と社会の共生の在り方を理解すると同時にグローバルな資源問題への理解へつなげます。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
資源管理論	濱崎 宏則	土地資源、水資源、森林資源、水産資源、エネルギー資源等さまざまな資源が持つ特質を理解し、資源配分を決める経済的、政治的しくみと管理について地域の実例を挙げながら概説します。	グローバル社会、資源管理、意思決定、資源の希少性、コモンズ
地域の環境を考える	深見 聡 中村 修	多様な地域の環境には、様々な可能性があります。過度な経済効率性の追求や、いわゆる都市部からの視点からではなく、地域がもつ固有性に注目した持続可能な社会のあり方について考えます。	地域の視点、環境教育、循環型社会、持続可能な観光
廃棄物の管理と処理	竹下 哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
資源管理論	◎		○	○	○	◎		○	○		◎			◎	○	◎
地域の環境を考える		○	○	◎	◎		○	○			◎	◎		◎	◎	◎
廃棄物の管理と処理	◎	○	○		○	○	○	○	○	○	○		◎	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	1	1	2	2	3
○(重視)の数	0	2	3	1	2	1	2	3	2	1	1	0	0	1	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a18 情報社会を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	丹羽 量久	責任部局	ICT基盤センター
趣旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、情報がどのように利用されているのかを多角的に知り、かつそれを解釈・活用・表現するための方法について学びます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識と技能を身につけてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
情報と社会	丹羽 量久 福澤 勝彦 正田 備也 三根 真理子	実社会における「情報」について、次の観点から考えます。 それぞれを理解し、説明できることを目標とする。 ・経済学的視点から理論とその限界について学ぶ ・ソーシャル・メディアに関する技術的話題に触れる ・医療現場における活用事例 ・「情報」の表現・可視化について	情報の価値 ソーシャル・メディア 医療データベース 情報の可視化
情報化の役割と課題	丹羽 量久	情報化により時間的・集積的・共有的などさまざまな価値が生まれます。この社会で実際に情報化された事例を取り上げて、その価値・応用について調べ、考えます。 情報社会における情報化の役割・価値・課題について理解し、説明できることを目標とします。	情報社会 情報システム デジタル情報
ソフトウェアの利用技術	丹羽 量久	ある問題を解決していく過程において、複数のアプリケーションソフト(データベース、電子書籍、その他)を活用していく方法について、演習を交えながら学ぶ。 解決すべき問題に応じて適切なアプリケーションソフトを活用できることを目標とする。	アプリケーションソフトウェア 電子書籍

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
情報と社会	◎	○	◎	○		○	○			◎		○		○	◎	◎
情報化の役割と課題	◎	○	○	○	○	◎	○	○		○		○		◎	◎	◎
ソフトウェアの利用技術	◎	◎	○	○	◎	○				◎					◎	◎
◎(特に重視)の数	3	1	1	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	1	3	3
○(重視)の数	0	2	2	3	1	2	2	1	0	1	0	2	0	1	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a19 ICTの仕組みと活用法		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	古賀 掲維	責任部局	ICT基盤センター
趣旨	今、私たちの身の回りには優れた性能をもったコンピュータが溢れている。コンピュータを自由に使いこなすことによって、一見不可能と思える問題を解決することができる。本モジュールでは、コンピュータの助けを借りて問題解決ができる能力(計算論的思考: Computational Thinking)を養うことを目的に、プログラミング、情報通信・ネットワークの仕組みやコンピュータを用いた仕事術について学ぶ。		
学生の皆さんへのメッセージ	必携パソコンや情報機器をさらに使いこなせるようになりたい学生の皆さんを歓迎します。是非、本モジュールで必携パソコンを身近なツールとしてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	柳生 大輔	コンピュータやネットワークの要素技術や規格・プロトコル等を知ることにより、コンピュータシステムや構成要素がどのような仕組みで稼働しているか、また、どのような性能や信頼性をもって稼働しているかを理解することを目標とする。	情報通信、コンピュータネットワーク、プロトコル、信頼性
プログラミング入門	古賀 掲維	本授業の目的は、プログラミング的な思考力を養うことである。本授業では、Windows ストアアプリの作成を通じてプログラミング言語やアルゴリズムについて学ぶ。プログラミング言語としては、ウェブブラウザで動作する JavaScript を用いる。	プログラミングアルゴリズムアプリ
情報化時代の仕事術	古賀 掲維	皆さんは、ライフハック(Lifehacks)という言葉を知っているだろうか？ ライフハックとは「情報処理業界を中心とした『仕事術』のことで、いかに作業を簡便かつ効率よく行うかを主眼としたテクニック群」(WikiPedia)のことである。この授業ではいくつかのライフハックについて演習をまじえて学び、日常生活や学習・研究の場で活用できるようになることを目標とする。	ライフハッククラウドスマートデバイス

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○
自己成長志向	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
批判的思考	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
相互啓発志向	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自己表現	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
行動力	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会貢献意欲	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本語力	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
英語力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
基盤的知識	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
環境の意義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
多様性の意義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
人文科学の内容を取り扱う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
社会科学の内容を取り扱う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
現代的な話題を取り入れる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
アクティブ・ラーニングの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
◎(特に重視)の数	3	1	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	3	2
○(重視)の数	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目



## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a20 多文化共生とグローバル人材育成		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	源島 福己	責任部局	国際教育リエゾン機構
趣旨	このモジュールは、将来、国内外を問わずグローバル社会の様々な分野で活躍したいと希望する学生が有すべき基本的な素養を、長崎の独特な歴史的背景や文化の知識を交えて理解することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの様々な知識はこの地を経由して日本にもたらされました。このモジュールはこうした長崎独自の経験知を共通の基盤として学び、さらには国際社会の法や政治のシステム、グローバルな環境問題や技術の進歩がもたらすインパクトを理解するための講義(モジュールⅠ)とグローバルなビジネス環境の中で生き残りを賭けた熾烈な競争を繰り広げる日系企業の国際化の歴史やそのための人材育成、人口動態と国際開発、国際機関や公的部門の役割等を学び、そこで活躍するために必要な文化や歴史に関する教養と異文化コミュニケーションの知識やスキルを身に付ける講義(モジュールⅡ)から構成されています。		
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル社会では国境という概念自体が希薄化し人、モノ、カネ、情報はそれを最も効率的に活用する場所へ集まり、多文化共生の環境が生まれます。このモジュールでは皆さんが長大を卒業した後でそうした知識を生かしてグローバルな環境で活躍できる人材になるための基礎的な学びの体験になることを目指しています。そのため、文化や歴史に関する知識、現代社会で求められる異文化コミュニケーション能力、グローバル化が進む日本企業の発展のや人材育成の歴史について学びます。このモジュールには多くの英語で学ぶ機会が提供されるので、辛抱強く挑戦して在学中に英語力やコミュニケーション能力を高めたというしっかりとした目標を持っている学生の皆さんの受講をお待ちしています。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
英語で学ぶオランダと西欧の文化	山下 龍	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。	東西文化交流 日欧交渉史 日蘭交流、国際理解 長崎学、異文化接触
異文化接触とコミュニケーション	古本 裕美	人は言葉を使ってコミュニケーションをしています。同じ言葉を使えば、自分が思った通りのことが誤解なく相手に伝わると考えてしまいますが、実はそうではありません。言葉は共有のものであると同時に社会、時代、男女などの影響を受けてその人自身で育てるものだからです。その同じ日本語であっても「異文化コミュニケーション」になります。この講義では、日本語を通して考えることを通して、言葉やコミュニケーションについての考えを深めることを目的としています。	言葉、コミュニケーション、文化、社会、変容
企業の国際展開とグローバル人材育成	源島 福己	グローバル社会の中心的な役割を担うのは、様々な国と多面的な関係を有し、国境を越えてビジネスを展開している民間企業です。こうしたグローバル化は最近ではじまったものではなく、英国やオランダの東インド会社を始めとして長い歴史があります。本講義では主として日系本企業の国際化の軌跡を辿りながら、企業の国際化の段階的な発展やそこで活躍するグローバル人材育成についての企業の取組について学びます。	多国籍企業、グローバル人材育成、中小企業のグローバル化

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	を取り入れる 現代的話題	アクティブ・ラーニングの活用
英語で学ぶオランダと西欧の文化	◎	◎	◎	○	○		◎		◎	◎		◎	◎	◎		○
異文化接触とコミュニケーション	◎	○	○	◎	◎			◎		○		◎		○	○	
企業の国際展開とグローバル人材育成	◎	◎	○	◎	◎		◎	◎	○	◎		◎		◎	◎	○
◎(特に重視)の数	3	2	1	2	2	0	2	2	1	2	0	3	1	2	1	0
○(重視)の数	0	1	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a21 グローバル化と国際開発		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松島 大輔	責任部局	国際教育リエゾン機構
趣旨	このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を、長崎の知の蓄積を基盤として教授することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの知はこの地を経由して日本にもたらされました。この経験知を共通の基盤として、国際関係を理解するための基礎知識(モジュールⅠ)、グローバル社会の舞台である国際的なビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPO や NGO による民間分野において、どのような活動がなされるのか、そのためにはどのような資質が必要とされるのか(モジュールⅡ)、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。		
学生の皆さんへのメッセージ	「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかり身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
稼ぐ観光～地域を通じたグローバルビジネスへの扉～	松島 大輔	グローバル化は、地方(ローカル)とどのような関係に立つのか。またグローバル人材とは国境を意識しない人材と定義すれば、どのような実践を目指す人物像なのか。この授業では、日本の直面する「地方創生」の可能性を検証しつつ、具体的な地域の観光事業化という持続可能な実践を通して、グローバルを通じたローカルの復権という視点(グローバル 2.0)に光を当てていく。	持続可能型観光 グローバル 2.0 地方創生 トランスナショナル
世界人口の動向と国際開発	松村 真樹	日本や欧州のみならず、アジア諸国においても急速な少子高齢化が進む昨今であるが、その一方で、高い人口増加率が依然として続いている開発途上国もある。人口動態を見ることによって、世界の多様性が見えてくる。同時に、過剰都市化、貧困層、ジェンダー格差、人口高齢化など、さまざまな課題も浮き彫りになる。人口学的視点から国際社会の変化と多様性について理解を深める。	人口転換 経済発展 社会変容 人口統計分析
国際援助と公的部門の役割	平岡 久和	国際援助は第二次世界大戦後の復興支援から活発なものとなり、日本の援助も国際政治経済の発展とともに様々な要因により変遷を辿ってきました。これまでの国際援助の世界的潮流やアプローチの変遷、国際的な援助協調の進展を踏まえ、日本政府による政府開発援助(ODA)を中心とした開発協力の役割と現状を理解し、今後の方向性を考えることを目的とします。	開発協力 ODA 国際協力 国際機関

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点				
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)										
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D	
自主的探究	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎
自己成長志向	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○
批判的思考	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
相互啓発志向	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
自己表現	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
行動力	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
社会貢献意欲	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
日本語力	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
英語力	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
基盤的知識	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
環境の意義	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
多様性の意義	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
人文科学の内容を取り扱う	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
社会科学の内容を取り扱う	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
現代的な話題を取り入れる	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
アクティブ・ラーニングの活用	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○
◎(特に重視)の数	1	1	2	1	1	1	1	0	0	3	1	2	0	2	2	1	1
○(重視)の数	2	2	1	2	2	0	2	3	2	0	2	1	1	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a22 文化と対人関係		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	北村 史	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。その一方で、人間は皆特定の文化圏に生まれ、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育っていきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。</p> <p>したがって、コミュニケーション力の向上には、普段当たり前になっている自分のコミュニケーション習慣を自覚化し、その上で様々な文化的背景をもった人々とも機能的に関わることのできる、柔軟な対応力を身につけることが不可欠です。本科目群では、文化人類学、身体心理学、異文化コミュニケーション学からの学際的視点でその課題にチャレンジします。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	対人関係や異文化関係について広い関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
対人関係の人類学	波佐間 逸博	自然に強く依存して暮らす人びと(狩猟採集民、牧畜民、農耕民)の事例にもとづき、言語的・非言語的コミュニケーションの多様性とその生成基盤、および普遍性について根源から考える力を身につける。	アフリカ・声の文化・歌・会話・身体・共生・共在
身体関係論	北村 史	自分と身体との関わり、および身体と外界との関わりについて理解を深めながら、対人関係での感受性や表現力を高める体験学習を行っていく。	非言語行動・身体アウェアネス・ワークショップ
異文化対応の問題と解決策	奥田 阿子 稲田 俊明 西原 俊明 廣江 顕	背景文化の異なる人々と関わる際の課題を理解し、相互理解と共生への手立てを探るために、具体的な事例を通じた問題解決学習を行う。	文化感受性・他者・グローバルイノベーション・共生思想

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	◎	○	◎	○				○		◎	○	◎	◎	○	◎	○
自己成長志向	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○		○		◎	◎		○	◎
批判的思考	◎		○		◎	◎	◎		◎	○		○	○	○	◎	◎
相互啓発志向																
自己表現																
行動力																
社会貢献意欲																
日本語力																
英語力																
基盤的知識																
環境の意義																
多様性の意義																
人文科学の内容を取り扱う																
社会科学の内容を取り扱う																
現代的な話題を取り入れる																
アクティブ・ラーニングの活用																
◎(特に重視)の数	2	0	2	1	2	1	1	0	1	1	0	2	2	0	2	2
○(重視)の数	1	2	1	1	0	1	1	2	0	2	1	1	1	2	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	16-a23 グループ・コミュニケーション		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	川越 明日香	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーション力をより機能的なものにしていくことが有効です。</p> <p>本科目群では、前期に生物学と音楽というそれぞれの分野から多様なコミュニケーションのあり方について理解します。後期はリーダーシップを媒介とし、各自の関心に応じた課題を設定し、それらの解決策について学習することを通して、コミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を旨とします。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問いませんが、コミュニケーションについて広く関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。科目内容だけでなく、他の学生や担当教員とコミュニケーションを実践し、技能の向上を目指します。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
コミュニケーションの生物学・臨床医学	岡田 二郎 磯 ふみ子	前半は、ヒト以外の動物におけるコミュニケーションについて、行動の進化と生理過程に着目して学ぶ。後半は、ヒトのコミュニケーションについて、基本的な脳機能と、障害をもつ事例から学ぶ。	進化、行動、感覚、脳機能、認知
音表現とグループ・プロセス	西田 治 小原 達朗	音を媒介としたコミュニケーション、スポーツにおけるサインなどの情報伝達のあり方を体験的に理解する。前半8回がスポーツ、後半8回が音楽に関する内容を扱うが、スポーツ、音楽の得意、不得意は全く問わない。	グループ・プロセス、参加型音楽
リーダーシップの問題と解決策	川越 明日香	前半は、リーダーシップに必須のコミュニケーションの条件について学ぶ。後半は、身近な生活におけるリーダーシップの課題を抽出し、その解決策について学習する。	セルフコーチング、対人関係、リーダーシップ

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
コミュニケーションの生物学・臨床医学	○	○	◎	○				○		◎	○	○		○	◎	◎
音表現とグループ・プロセス	◎	○	○	◎	◎	◎		○				○	◎		○	◎
リーダーシップの問題と解決策	◎	◎		○	○	◎	◎	○		○		○	○	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	1	1	1	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	2	3
○(重視)の数	1	2	1	2	1	0	0	3	0	1	1	3	1	2	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目